

第8回資源管理手法検討部会の結果について

令和4年9月27日
水産政策審議会
資源管理分科会
資源管理手法検討部会

令和4年7月11日（月）に開催された第8回資源管理手法検討部会（ブリ）で整理された論点及び意見は次のとおり。

● 漁獲等報告の収集について

- 市場外流通や遊漁の数量を把握する体制等を検討すべき。
- 各地域における銘柄、箱あたり入り数または重量等の標準化及び漁獲報告のデジタル化が必要。
- 漁獲報告の収集のため、デジタル化に必要な知識、技能を有する人材育成が必要。

● 資源評価について

- 漁獲圧がMSY水準以上であるにも関わらず資源が増えている等、資源評価結果は現場の実感と乖離があり、また、評価方法等に改善の余地があるとの指摘を受け、資源評価に用いたデータや評価プロセス等について丁寧に説明するとともに、引き続き資源評価手法の高精度化に向けた取組を行うべき。
- 外国漁船や遊漁による漁獲の状況と資源評価への影響を示すべき。

● 資源管理について

- TAC導入の必要性について疑問があるという御意見があったことなどを踏まえ、今後、TAC導入の必要性が理解されるように、改正漁業法のもとで数量管理を基本とすることとなった経緯を含めて説明を行う必要がある。
- TAC導入に当たって、まずは試験的に実施するような仕組みを検討してほしい。
- 漁獲量の安定を図るシナリオや都道府県単位での複数年TAC、次管理年度からの前借や繰越し、定置網漁業による地域別の数量管理等の措置も検討してほしい。
- ブリの来遊は年変動が大きいこと等を踏まえ、迅速な融通等、柔軟な対応が可能となる制度・運用を検討してほしい。
- 漁獲シナリオ等の設定に当たっては、漁業経営等に与える影響も考慮すべき。
- 数量管理にあたっては、すべての漁業種類、地域で重要な魚種であるため、漁業実態に応じて公平に導入すべき。
- ブリの市場価格が年末にかけて高くなることや、地域によって主漁期が異なること等を踏まえて、管理期間を設定してほしい。
- TACの配分基準について、過去何年間分の漁獲実績を考慮すべきか等について検討すべき。
- 遊漁者も一緒に管理に取り組むべき。また、外国漁船の適切な管理に向けて取り組むべき。

- 選択的放流技術の開発や休漁支援等の影響緩和策と併せて慎重に議論する必要がある。
- 資源管理目標等について、MSYベースに加え、現場の漁獲実態やサイズ別単価などの社会経済的要素も考慮した目標等も検討すべき。また、加工流通業者の意見を聞いて資源管理目標を設定すべき。

● SH会合で特に説明すべき重要事項について

- ブリは関係者が幅広いことから、各地域でSH会合を開催するなど、十分な説明及び議論が必要。
- 資料は関係者に分かり易いよう作成し、開催前に余裕あるスケジュールで資料を公表してほしい。

(以 上)